

ケンケンパⅡ
～型の違いは
なぜ？～

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

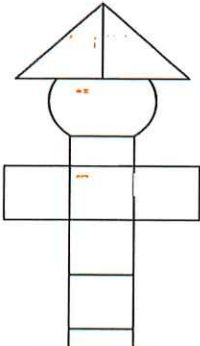
西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

今回はケンケンパの型の違いと遊んでいた地域の違いを紹介しました。今回はこの違いはなぜ起こったのか、その理由を考えてみます。



マル型

カカシ型とマル型二つにまたがっている校区は榕城と上西ですが集落で異なります。なかでも、上西の花里崎・栢之峯・横山集落はカカシ型マル型両方で遊んでいたのが特徴です。



カカシ型

〈現和全域〉
※団体戦

〈上西〉
大崎
池之久保

〈榕城〉
松島
洲之崎
野首
小牧野

〈上西〉
花里崎 栢之峯
横山

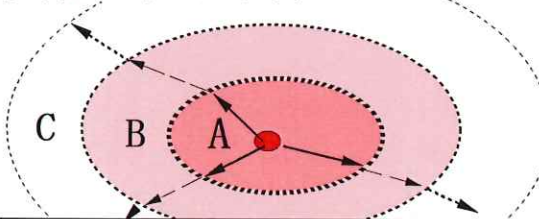
〈上西〉 大花里
〈榕城〉 美浜町 古園団地

この調査に協力してくださった方は40歳代～60歳代でした。

榕城美浜町古園 団地だけは10代後半の方でした。

〈国上〉 寺之門 〓 瀨泊
〈古田〉 番屋峰 中之町
〈伊関〉 沖ヶ浜田 柳原
〈住吉〉 能野 中之町 里之町

文化の伝わり方



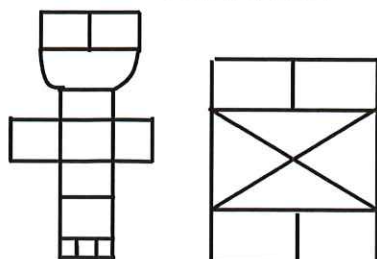
協力者の年代に目を向けると、〈上西〉花里崎・横山の昭和十年～二十年前半生まれの方はマル型で、それ以降に生まれた人はカカシ型でした。

その間に何があったのでしょうか。昭和二十五年は太平洋戦争終結の年です。戦後に新しい型としてカカシ型が流入してきたのでしょうか。しかし栢之峯では、戦後もマル型で遊んでいたそうです。そこに疑問が残ります。

ある文化（＝ここではケンケンパのこと）がA●で発生し、人が博したのでBやCの地域へ伝わったとします。Aで流行したルールが、周囲Bの人々の習俗や好みなど地域性に合わせて変化しながら伝わります。それがCに伝わると、さらに変化します。

明治初期、開国によって海外からケンケンパが流入しました。当時はインターネットやTVはもちろんのこと、自動車などは無い時代ですので流行は人馬によるものです。よって伝わり方は極めてゆっくりです。時を経てCに伝わった頃にはAでは新しい遊びが生まれたり、中には消滅したりします。結果、Cの一部地域では、失われた中央文化Aの型が残されるのです。

その他の型



その他の型もありました。このような独特な変化や進化はこの地域の子どもの柔軟な考え方や発想によるものではないでしょうか。また榕城校区ではカカシ型が多いのですが、美浜町古園団地ではマル型が見られました。ここは転出入が多いという背景から変化が生まれたのではないかと考えられます。

このケンケンパ問題はデータが少ないため根拠が弱い内容になりましたが、私にとってたいへん面白いテーマでした。

（皆さんからの取材へのご協力、たいへんありがとうございました。）

〈参考〉『文化人類学入門 増補改訂版』祖父江孝男著 中公新書